

SB40 サイドイベント傍聴報告

2014年6月7日

一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2014年6月4日～15日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第40回補助機関会合 (SB40) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：フェーズVI (GEF-6) における気候変動戦略 “GEF 6th replenishment New Climate Change Strategy”
- イベントの種類：サイドイベント
- 日時：2014年6月7日 (土) 13:15-14:45
- 主催：地球環境ファシリティ (Global Environmental Facility: GEF)
- 会場：ドイツ環境省 (Solar)
- プレゼンター： Franck Jesus 氏 (GEFClimate Change Team)、Rawleston Moore 氏 (GEFClimate Change Team) ベルギー政府担当官 (GEF ドナーの代表として)

■ 概要

- 冒頭、GEF ドナーの代表としてベルギー政府の担当官より 2014年～2018年までの新しいフェーズVI (GEF-6) 気候変動戦略の背景及び経緯について説明がなされた。ドナー各国の厳しい経済状況にも関わらず、フェーズV (GEF-5) と比較して資金規模は増加しており、重点分野を増加させるとともに、分野横断的な活動に対する資金提供機会を増やすなど、今後更に多くの地球環境に貢献するプロジェクトを実施していく旨発表がなされた。

■ 発表内容

1. Mr. Franck Jesus (GEF)

- GEF は過去 20 年に渡って環境分野へ資金提供を実施しており、フェーズVI (GEF-6) は 44 億ドルの資金規模である。「気候変動緩和」と「生物多様性」が主要な活動分野であるが、これまで同様に「化学物質」、「廃棄物」、「水資源」に加えて新たに「食料安全保障」、「持続可能な都市」、「森林劣化」等の分野でも資金提供を行っている。気候変動緩和分野では、①技術移転・政策策定支援、②緩和行動の実施、③持続可能な開発との協調、の 3 つのプログラムがある。
- GEF はプロジェクトの R&D から実施及び普及まで資金提供を行うことが可能である。

2. Mr. Rawleston Morre (GEF)

- GEF は気候変動の適応分野に資金提供をする Least Developed Countries Fund (LDCF) と Special Climate Change Fund (SCCF) の運営を行っており、これらは GEF 基金と

は全く別のドナー諸国による自主的な基金である。基金の予算は年々増加しており、リスク移転及び保険、民間セクター参加の促進、エコシステムに即した適応行動等に関連するプロジェクトへ資金提供を行っている。

■ 質疑応答

Q. (バングラデシュ) : 重点分野の「食料安全保障」や「水資源」等は緩和では無く適応に属するべきではないか。フェーズVI (GEF-6) における支援を受ける国の協調融資供与率 (Co-finance) はどの程度か。

Q. (セネガル) : 持続可能な都市に焦点を当てると聞き喜ばしい。GEFの地域オフィスにコンタクトをすれば基金にアクセスが出来るか。

A. (GEF) :

- ・「食料安全保障」や「持続可能な都市」は緩和のみに焦点を当てているわけではなく、分野横断的な課題として掲げている。
- ・WWF、Conservative International、イクレイ等の14機関と協調して、GEF基金へのアクセスをより広く可能にしている。
- ・協調融資供与率 (Co-finance) に関しては、現在まさに交渉中であり、GEF-6のレポートに記載される予定である。

Q. (コンサルタント) : Article 6 (教育・人材育成) に関連する活動への資金拠出はあるか。

Q. (モロッコ) : モロッコの都市は砂漠も多く、持続可能な都市は緩和だけではなく、適応の問題も大きい。

A. (GEF) :

- ・GEFの主目的は地球環境に貢献することであり、教育のみを目的としたプロジェクトの実施は難しい。なお、Article 6で議論が行われている国別報告書に関しては既に資金提供がなされている。
- ・フェーズVI (GEF-6) ではより総合的なアプローチを取っており、緩和・適応の垣根を越えたプログラムへの資金提供を行う意向である。

Q. (不明) : 先進的な技術を取り入れるだけではなくて、伝統的な手法を取ることが持続可能な都市に貢献するアプローチもあると思う。

A. (GEF) : そういう見方もあり、GEFの枠組みの中でも多様なアプローチを扱うことを可能としている。

Q. (不明) : 森林分野と農業分野は同じ重点分野として扱われているようだが、農業分野だけに焦点を当てたプロジェクトを実施することは可能か。

A. (GEF) : これまでに分野横断及びより焦点を絞ったプロジェクトへの資金提供も行ってきている。



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

Q.(ブラジル):GEFのプロジェクトに関してGHG削減量の算定を実施していると聞いたが、詳細を教えてください。

A. (GEF) : コンサルタントと一緒に算定の方法論を作成し、GEFプロジェクトのGHG削減効果を測ってきた。現在は、プロジェクト実施前だけではなくて、実施中の環境影響を測る手法の確立も検討している。

(報告者 : OECC 金子 絵美)

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/info/event/details_oecc_SB40report.html